

「世界のロータリー」田中作次

世界の環境変化と共に、クラブもその時代に合わせて現状にマッチさせるよう適切に変化させることが重要です。どのような変化を取り入れるべきかについては、主体性を持つクラブが理事会を通して検討する必要があります。これには、年会費の妥当性や例会出席の見直しも含まれます。例えば、若い世代の会員にも合うような年会費の額、朝、昼、夕方などの例会時間の再検討、家庭の主婦を含めた女性会員の増加、魅力ある例会プログラムへの再検討、あらゆる奉仕活動の見直しも含まれます。

また現在意義ある奉仕活動をクラブなどで行っているか、「ロータリーに関心を持ったのはなぜか」、「クラブが取り組める地域社会の本当のニーズは何か」「ロータリーで何をしたいか」、など、新会員の声に耳を傾けることで、これまでに見えなかった新しいアイデアが浮かぶかもしれません。

また、国際ロータリーの長期計画を参考に、地区内では各クラブの3か年長期計画を立てておられると思います。ロータリーは常に目標を立てそれを目指して活動します。生きている、ありとあらゆるものが成長するように、組織も成長しなければ存続できません。長い歴史を持つロータリー・クラブの皆さまは、このことをよくご存知の事と思います。それぞれのクラブは設立された時と全く同じ姿ではないでしょう。

幾世代にもわたり、前の世代が去り、次の世代の新しい会員が入会します。毎年役員が交代し時々には以前とは異なったプロジェクトが行われます。しかし、重要なことは、そこに常にロータリー・クラブがあるということです。表層が様々に変化しても、ロータリーの中核、つまり奉仕への献身は変わりません。その意味ではクラブはいつの時代も同じクラブです。クラブのお陰で、皆様の地域は以前よりも良い地域社会になりました。そして、これからも末永く、皆様のクラブと共に、この地域で人々が助け合い支え合って、発展していくことでしょう。

ロータリー・クラブのある地域社会は、クラブのない地域よりも必ず良い場所になると私は信じています。ロータリーがある地域社会の人々の人生は、必ず豊かなものになると思います。ロータリーが大きくなれば、それだけ強くなりますが、ただし、会員数を増やすことだけを目的に新会員を入れても、ロータリーは強くなりません。ただクラブに入会するのではなく、真のロータリアンとなれる人を迎え入れ、クラブでしっかりと指導してこそ、ロータリーは強くなれると思います。

私が八潮ロータリー・クラブに入会した日は、新しい人生を歩み始める第一歩となりました。人々とのつながり、奉仕を通じた満足感や達成感、そして平和を、それまでよりも深く感じるようになりました。私は、この気持ちを多くの人に伝えていきたいと考えておりますが、その方法の一つが、ロータリーへの入会をお誘いすることだと考えています。

入会见込者に伝えなければならないのは、ロータリーが素晴らしい団体であるということ、そしてロータリーへの入会によって、彼らの人生がより幸せになるということです。

ここにいる私たち全員が、会員であることの素晴らしさを知っており、ロータリーを愛しています。私たちがロータリーで見つけた幸せを、多くの人々に知っていただきたいと思っています。

今から約50年前の1975年にロータリーへ入会した当初、それから私の人生が全く違った方向に向かっていくとは、思ってもみませんでした。ロータリーのお蔭で私の今日があり、私の生きる目的が明確になりました。それは他者や社会の為のために自分のできる範囲に於いて少しでもお役に立ち地域社会そして世界平和のためになれることです。

ロータリーでは、常に目標を立て、それを目指して活動しています。生きている、ありとあらゆるものが成長するように、組織も成長しなければ存続できません。固有の歴史と伝統を持つクラブの皆さまは、このことをよくご存知ではないでしょうか。各クラブが設立された時と現在ではまったく同じ姿ではないでしょう。

幾世代にもわたり、前の世代が去り、の世代の会員が入会します。そして毎年、役員が交代し、年によっては違う新しいプロジェクトが実施されます。それではこれから世界を回って各地の会員から当時RI会長に対して質問を受けた内容の一部の項目についてQ&A方式でお話をさせていただきます。最初のQ1だけが少し長くなりますがご容赦ください。

Q1, RI会長の役割は何ですか

エバンストンで執務している以外の日は、RI 会長は各国を訪問している、と言っていいかもしれません。国際ロータリーを代表する者として、各国の現または元政府指導者と会談することになっています。

ロータリーが1985年から開始したポリオ撲滅運動を通じてメリンダゲーツ財団との深い関係も強化されました。さらに人道的、教育的プログラムを通じて世界理解と親善そして平和を推進しています。

定期的に行われる大切な会合として、まずRI 理事会が挙げられます。クラブの管理主体も、クラブの理事会であるのと同じように、RIの管理主体も、RIの理事会で、RI会長はRI理事会の議長を務めます。

理事会は、世界中の全クラブを代表する責務をもつ理事17人と、RI 会長、RI会長エレクトの計19人で構成されています。

またRI会長は、そのほかの国際的会合に出席します。RI 会長指名委員とRI理事指名委員を選挙するためにRI 理事会が編成したクラブの集団をゾーンといいます。このロータリー・ゾーン研究会で講演を行ったり、ロータリーの行事日程表では、特別の行事とみなされているので、毎年度開催されるとは限りませんが、会長主催会議を持ちます。私がRI 会長をさせて頂いた2012-13年度の11月にベルリン、1月にハワイ、5月に広島の世界の3か所で平和フォーラムを夫々3日間にわたり主催し、3か所共に夫々2千人以上のご参加を得ることができました。

私がRI会長を務めさせて頂いた 2012-2013年度のテーマは「奉仕を通じて平和を」にしました。ロータリーの最優先項目は全世界でポリオを撲滅することです。ロータリーがポリオ・プラス・プログラムを発足させ1985年以来、ロータリアンの強い意志と努力によってポリオの感染数は 99.9%減少し、ポリオが撲滅される日はそう遠くありません。ポリオ撲滅が達成されれば、天然痘に続いて人類史上2番目に撲滅された疾病となります。

さらにロータリーが取り組んでいる6つの重点分野の活動があり、それは次の通りです。母子の健康、水と衛生設備、疾病予防と治療、平和と紛争解決、基本的教育と識字率の向上、そして経済と地域社会の発展です。

また、ロータリーは、母親や子供たちが基本的な医療を利用できるよう支援しています。現在、栄養失調や不十分な医療・衛生のために亡くなる5歳未満の子どもの数は、世界で約 700万人と推定されていますが、ロータリーはこのような子供たちの命を救うために活動しています。ある調査によると、妊産婦が産前・産後の医療や訓練された保健従事者のサービスを受けることができれば、妊産婦の死亡の80パーセントを防げることが分かっています。ロータリーは、母子の健康を向上させるための、教育、予防接種、お産キット、移動診療所を提供しています。

きれいな水は、人間の基本的ニーズの一つです。きれいな水は、人びと、特に子供たちが、より健康で、実りある生活を送ることを可能にします。「疾病予防と治療」では、発展途上国で多くの人びとが質の高い医療を低コストまたは無料で受けられるよう、支援活動を行っています。

そして世界には、学校教育が受けられない子供たちが6,700万人、読み書きができない15歳以上の人たちが7億人以上います。ロータリーは、世界の地域社会で、テクノロジー、教員研修、職業研修チーム、給食、廉価な教科書を提供する教育プロジェクトを支援しており、地域社会が基本的教育と識字率の教育機会における男女差、成人の識字教育を自力で改善できるよう、その能力を高めることを目標としています。

世界で14億人が、1日1ドル 25セント未満での生活を強いられています。

ロータリーは、支援が行き届いていない地域社会において、研修、雇用の機会、小口ローンを提供することで、経済や地域社会の発展と貧困の支援に取り組んでいます。さらには、仕事に必要な道具を寄贈したり、職業研修を行ったりすることで、貧困地域における起業家やリーダー、特に女性を応援しています。

ロータリー平和センターで学んだ平和構築専門家は、英国からオーストラリアに赴き、スーダンからの難民のコミュニティーづくりを支援するとともに、紛争解決に取り組んでいます。世界で6,500万の人びとが武力紛争や迫害によって住居を失っています。武力紛争からの避難民の90パーセントが民間人で、そのうち半数は子供です。

ロータリーは奉仕プロジェクト、フェローシップ、その他の活動を通じて紛争を予防・解決し、危険地域を逃れてきた避難民を援助する人たちに研修を提供しています。会員はまた、貧困、差別、民族間の摩擦、教育機会の不足、リソース分布の不平等などといった、紛争の構造的な原因を改善するプロジェクトを実施しています。

先ほども少し触れましたがロータリー平和センター・プログラムは、世界に6つある平和センターで、平和研究の分野における修士号または終了証を取得する機会を毎年約100名程度提供しています。現在 1100人以上の平和フェローが、世界各地の政府や組織で、重要な決定の役割を担っています。

Q2,国際ロータリー本部のあるエバンストンの住まいは

会長ノミニートとエレクトの1年半は本部裏のアパート、そして会長年度は本部から徒歩で7分の場所にあるもっと良い住居です。毎年の会長は同じ住まいで生活しています。しかし2年半の内の90%は世界を廻っています。翌週以降の会長としての仕事の準備のために本来休日である土曜と日曜日が私にとって特に多忙でした。このような理由で結果的に私の休日は1日もありませんでした。もちろん風邪や病気で休んだこともありませんでした。

Q3,病気で休んだことはあるか

一日も休むことはありませんでした

Q4,RI会長の選挙はどのように

私のRI 長年度は立候補者として15分のカラービデオによって英語と日本語で自分の声を録音しました。その年の8月にエバンストンに世界の 34ゾーンから毎年 17人の代表が集まりその録画を見ながら討論し1日で選挙しました。その内容は私がもしRI会長になったらどのようなやり方で世界にアピールしていくのかというようなことをいろいろと話しました。

毎年10人から15人の立候補者が世界から出て戦います。もちろん同じ候補者が数年続けて出ますが途中で断念する候補者も多くいます。私の選挙の時は元RI 会長であるグリーン氏を含めて10人でした。

Q5,RI会長を目指したのはいつごろか

以前から会長に立候補するよう何回も要請を受けたが乗り気ではなく断ってきた。しかしこれ以上断りきれずに条件付きで了承。条件は一回の挑戦で落選したら再挑戦しないという約束をした。それは会長になる約3年前のこと。実際には一回で選挙されてしまいました。

Q6,RI 理事会は

世界から17人の理事と、事務総長そして副会長が入り会長が議長となり、1年に4回開催されます

Q7,以前に想像していたこととの食い違いは

それほどありませんでした

Q8,世界を廻っている時の言語は

日本に滞在中以外はすべて英語のスピーチであり英語以外の会話はすべての地域で通訳をつけて頂きました

Q9,能力開発のポイントは

潜在能力の顕在化で常に目標設定高くし、継続して繰り返していくことだと思います。

Q10,日本に帰れた日数は

1年に3日くらいですが殆ど家にはいませんでした

Q11,もう一度訪問したい国は

スイスが一番好きな国です

Q12,奥さんはどうしていたか

エバンストンでの休日は一緒にいますが会議の時は外国の奥さん達と一緒に言語には大変だったようです

Q13,部屋はいくつあったか

ノミニー、エレクトの時は1部屋で会長の時は3部屋が与えられました

Q14,外国でゴルフはできたか

全くできませんでした

Q15,訪問国数は

2年半で70か国以上と思います

Q16,健康の維持方法は

くよくよせずいつも楽しく前向きに過ごすこと

Q17,外国のゾーン研究会出席は

世界 21か所あり2年間ですべてを回り、それぞれの地域で講演を行いました。

Q18,エリートだけが会員になれると云うのは本当ですか、また誰でも会員になれるのは何故ですか

ロータリー通じて地域社会を改善するために、意欲を持って時間と労力をささげることができる全ての専門職者や職業人をロータリーは歓迎しています。

Q19,財団の寄付額の順位は

アメリカ、日本、インド、韓国、ブラジル

Q20,世界の国の会員数順位は

アメリカ、インド、日本、韓国、ブラジル

Q21,日本の評判は

日本人の評価は高く、日本国の評判も良く、食事もです。
又日本人は仲間意識が強くアメリカ人が個人主義のようでした。

Q22,時差の問題は

初きつかったのですが自然に慣れてきました

Q23,秘書はいるか

: Rosemary さんという素晴らしい方でした。

Q24,公式の秘書はいるか

パトリシアさんという方が1年間公式書でした

Q25, 国際大会での家族の紹介は

バンコク14人とリスボン15人が大会壇上に

Q26,国際大会の最高登録人数は

43,000人以上で大阪大会が新記録でした

Q27, 2012-13年度のRI 会長として

私は3回の平和会議を開催しました。平和会議のテーマ：広島「平和はあなたから始まる」ベルリン「国境のない平和」ホノルル「平和にいたる緑の道」其々2千人以上の参加し3日間づつでした。

Q28,自家用車は

一台車が与えられましたが私は一回も運転しませんでした

Q29:30,財団管理委員には

RI会長を終えた後1年間は休みでその後4年間は財団管理委員として務め、最後の4年間はロータリー財団管理委員長です。私はそれ以前にも財団管理委員を4年間勤めました。

Q31,困ったことはあったか

それほど困ったり、苦しいようなこともなく楽しく過ごせました

Q32,女性がロータリーで活動できるようになるまで、長い時間がかかったのは何故でしょうか

今日、女性会員はロータリーの重要な部分を占めており、その数も拡大しつつあります。ロータリー・クラブは地域におけるビジネスの状況を反映しており、より多くの女性がビジネスリーダーとして社会で活躍するようになれば、それだけロータリーの女性会員も増えることとなります。

近年では、何千ものクラブで女性がクラブ会長になっています。またロータリーの理事会や管理員会でも女性が入ってきました。あと数年で女性のRI会長が実現すると思われま。ロータリーを通じて女性が世界の地域社会に変化をもたらしていると云うことこそ重要な意味があるのだと思います。

Q33. 2012-13年度のテーマを「奉仕を通じて平和」に決めた理由は

どんな些細なことでも、人を助けることが、いずれは平和につながると思うようになりました。「平和」というのは、よく耳にする言葉です。ニュースでも、日常会話でも良く聞きますし、ロータリーでも頻繁に口にする言葉です。しかし、「平和」とは何なのか、どういうことなのかを、あまり考えることはありません。

一番簡単なのは、「平和」ではない状態がどのようなものかを考えることでしょう。そう考えれば、平和とは、戦争や暴力、飢餓、苦しみ、貧困を恐れることのない状態です。また逆に、「平和」それ自体が、どういう可能性を秘めているのかで、定義することもできます。そういう意味では、「平和」とは、思想の自由、選択の自由であると言えるでしょう。また、安心できる未来、安定した社会であるとも言えるでしょう。

また、もっと抽象的なレベルでは、「平和」とは、幸福感や、心の平穏であるとも言えます。このように、「平和」が何を意味するかは、人によって違います。どの定義が正しいとか、間違っているとかではなく、自分にとって「平和」が意味すること、それが平和です。どのような意味でこの言葉を使うにしても、ロータリーでそれを実現することができます。ロータリーは、保健、衛生、食糧、教育などの人々の基本的なニーズに応えています。また、友情、人と人とのつながり、思いやりといった、心のニーズにも応えることができます。さらに、国や民族間の友情や、寛容の精神を推進することで、ロータリーは、最も伝統的な意味での「平和」、つまり、互いを理解する心を養うことができます。

私は、「超我の奉仕」は単なる標語ではないと考えております。それは、誰の人生をも、さらに豊かで、有意義なものにする、生き方を示していると思います。ロータリアンは、自分よりも人のニーズに耳を傾け、自分だけでなく、社会全体のためを考えます。これは、平和への基本です。先ほど申し上げましたように、私は、2012-2013年度のロータリーのテーマを、「奉仕を通じて平和を」といたしました。これは、「平和」をどのように定義するにしても、奉仕を通じて、平和をもっと現実近づけることができると考えるからです。

ほかの人のニーズが、自分のニーズよりも大切だと思え、みんなのためになる共通の目標に向かって力を合わせられるようになれば、世界に対する見方、人との接し方、優先順位など、すべてが一変するでしょう。